

2015年12月期第2四半期 決算説明会における主な質疑応答内容

(2015年7月31日(金)、東京)

- Q1. 第1から第2四半期にかけての事業分野別の利益増減について
- A1. 太陽電池用基板はわずかに水面下です。光・電子デバイス分野は、第1、第2四半期ともに、20%超の営業利益率を維持しています。ガラスファイバは、新設備の立ち上げコスト増もあり、立ち上げのところでは営業利益率で10%を下回りましたが、現在は安定的に推移しています。医療・建築・耐熱分野は、良いもの悪いものはあるものの、全体としては改善しており、水面の上下を行き来している状況です。液晶用については、1桁%台の営業利益率で推移しています。
- Q2. カバーガラスは、価格が下落した分、第1から第2四半期にかけて減益になっていると考えてよいか
- A2. それほど変わっていません。
- Q3. 液晶用基板ガラスの数量について、第3四半期で1桁%前半の伸びを見込んでいる根拠は何か
- A3. パネルメーカーが下期以降慎重になっているとのニュースは伝わっていますが、営業からの情報では、さほど影響は受けないだろうとのことです。また、年後半、中国新規顧客への売上が伸びると見込んでいます。
- Q4. 第2四半期は他社の生産不調が追い風となったと聞いたが、このままシェアを維持できる見通しか
- A4. シェアが維持できるのか、戻るのかについては良くわかりません。
- Q5. 液晶用基板ガラスの出荷が年率5~7%増加するということは、第3から第4四半期にかけては数量フラットないしマイナスを見込むということか
- A5. 我々の見方は、そうではありません。(数量増を見込む)
- Q6. 生産性が改善しているにも係らず売上見通しを下げた。年末に向けて在庫は増えるのか。効率改善が売上に結びつかない原因は何か。
- A6. 足下でガラスファイバと耐熱ガラスの在庫が増えています。ガラスファイバは、想定どおり生産を増強してきましたが、生産に対して少し売り負けています。昨年値上げしたことで、大手のお得意先では影響はなかったものの、中小のお得意先が少し買い控えをされたと聞いています。ただ、下期には売りが強まると見ており、機会損失がないようにきっちりと売っていきます。耐熱ガラスは、海外の拡販は進むものの、在庫が更に増えれば調整を検討しなければならないと考えています。

- Q7. 通期見通しで利益を上方修正した要因について
- A7. 最大の要因は、コスト削減と生産性向上、原油価格の下落です。原油価格が 1 バレル 60 ドル程度で推移すると、原燃料トータルで年間 10 億強のコスト削減になると見えます。
- Q8. 生産性向上については、韓国と日本、或いは製品別でどのようなものが寄与しているのか
- A8. 液晶用基板ガラスでは、特に韓国の生産性が高いです。加えて、昨年、生産性改善の工事を実施したため、前年度第 3 四半期あたりで利益率が低迷しましたが、足下で、その改善効果が現れてきたものと見えています。
- Q9. 液晶用基板ガラスは、定常的に現在の利益率を維持できると考えて良いか
- A9. 利益率を向上させるためには、生産性を安定させた状態に持っていくことが重要です。現在、どの製品も安定的に生産性が維持できていると考えています。
- Q10. 液晶パネルメーカーの収益性が来年前半には悪化すると予想されている。ガラスへの価格圧力について、薄型化による価格影響もあわせてどのように考えているか。
- A10. 我々は、生産性は上げていきますが、大幅な増産は考えていません。おそらく、他社も同様と認識しています。よって、ガラス余りが再び訪れるとは考えにくく、需給バランスは保たれると考えています。また、ガラスは薄くなれば製造は難しくなりますので、薄型化が進んでも価格は維持していきたい考えです。
- Q11. 生産性の改善効果は来年以降も継続するか
- A11. 生産性改善の活動に終わりはなく、ガラスの歩留まりは他の工業製品に比べてまだまだ低いと認識しています。来年以降も生産性向上の余地はあると考えています。
- Q12. ノンディスプレイ事業の比率が高まることによって在庫は増えるか
- A12. ノンディスプレイ事業の中でも、製品により在庫水準には違いがあります。従って、ノンディスプレイ事業だから在庫を多く持たねばならないということはありません。但し、医薬用管ガラスは、日本のサプライヤーは当社のみですので、医療に対する不安が起きないように、少し多目に在庫を持っています。
- Q13. 営業利益を通期で 50 億円上方修正したが、かなりの部分は作り過ぎにより製造固定費が在庫に逃げているだけではないか
- A13. そういった面が多少あるかも知れませんが、基本的には、生産性が高まった中でコストが下がり利益を押し上げたと考えています。

Q14. 今回、営業利益と経常利益を上方修正したが、当期純利益の見込みを変えていないのはなぜか

A14. 税率改正による繰延税金資産の取り崩し、藤沢事業場の閉鎖費用といった特殊要因が影響しました。第3四半期、第4四半期にはこういった特殊要因は発生しないと考えています。

Q15. 海外移管等で生産性がかなり改善している。中国への移管も考慮し最終的にどの程度の利益水準になるのかなどについて、中期経営計画で示してほしい。それにより、短期志向になりがちな（御社の）市場の見方も長期的な視点で見られるようになるのではないか。

A15. 中期経営計画については、コーポレートガバナンス・コードでも要請されています。我々も、長期的な方向性を投資家の皆様にお示しする段階にきていると認識しており、現在、目指すべき事業や新たな開発も含めた中期経営計画の策定を検討しているところです。

Q16. 中国の新規顧客とは長期契約が締結されているのか

A16. 契約内容の詳細は差し控えさせていただきますが、いくつかのガラス会社の中から当社をお選びいただき、かなりのシェアで納入させていただけると聞いています。

Q17. ガラスファイバの売上げは下方修正のようだが、利益の見込みはどうか

A17. 営業利益率で10%強は確保できると見えています。

Q18. 液晶用基板ガラスの在庫量について

A18. 適正なレベルと認識しています。

Q19. 液晶用基板ガラスの数量が第2四半期に上振れした。これに中国新規顧客向けの数量増と合わせ、通期の数量見通しは期初と比べ上方修正になるのか

A19. 南京については、昨年、新加工工場建設を決定した時点で顧客との契約数量を見込みに織り込んでいます。第2四半期の上振れを織り込んでも、特段年間数量見通しには変更はありません。

Q20. 厦門工場の稼働時期について

A20. 第1期の工事は概ね想定どおりに進捗しており、2015年12月後半には最初のラインが稼働する見込みです。良品採取は来年の初め頃、フル稼働は来年半ばになると思われれます。一方、第2期の稼働開始は現在2016年末を予定しているものの、工事のスタートは市場の動向を見極めながら判断していきたいと考えています。

Q21. 厦門工場の生産コストは韓国のコストと比べてどうか

A21. 中国も電気料金が上がり、人件費もかなり高くなってきました。ただ、輸入関税も考慮すると、全体的なコストはまだ韓国よりも中国のほうが低いのではないかと思います。ただ、以前のような大きな差はありません。重要なことは、我々の技術や設備について、韓国バージョンよりも更に改善したものを厦門に導入していけるかどうか、それによりいかに良品率を高められるか、だと考えています。

以 上

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。